

正しい病院のかかり方

緊急性をともなわない時間外の受診やはしご受診は病院に迷惑がかかるばかりでなく、初診料を複数回支払うことになるなど、金銭的な負担が大きくなります。

こんなにプラスされます

	〈病院・診療所〉	〈調剤薬局〉
平日は 6～8時、18～22時 土曜は 6～8時、12～22時 時間外の場合	通常の医療費 + 850円	調剤技術料と 同額 を加算
22～翌6時 深夜の場合	通常の医療費 + 4,800円	調剤技術料の 2倍 を加算
日曜・祝日、12/29～1/3 休日の場合	通常の医療費 + 2,500円	調剤技術料の 1.4倍 を加算

- ※上記は初診時（診療所の夜間・早朝等加算は初診・再診とも）の金額です。
- ※自己負担額は、70歳未満は上記金額の3割、70～74歳は2割、70～74歳で現役並み所得者は3割、未就学児は2割です。
- ※医療機関や診療体制により加算等が異なる場合があります。

早朝や夜間の受診は
緊急のときのみ

緊急性がなく軽い症状であるのにもかかわらず、早朝・夜間や休日に開いている緊急外来を受診すると医療費が割高になります。通常の医療費に追加料金がプラスされることとなります。

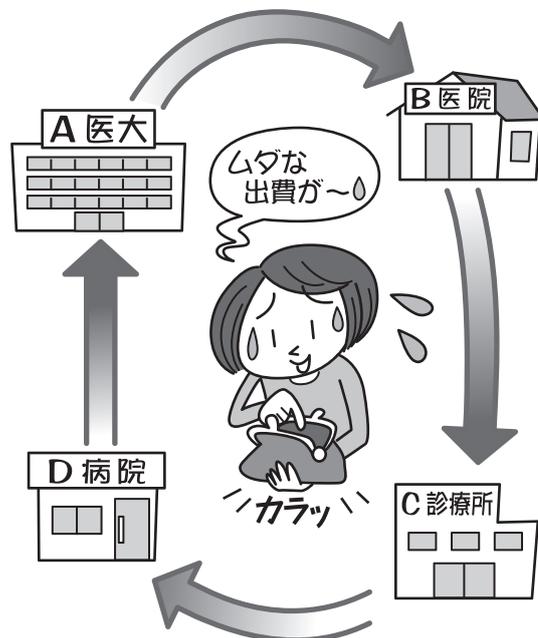
「平日や日中は都合悪いから」などの理由だけで、早朝・夜間・休日の受診をするのはやめましょう。



「はしご受診」とは、同じ病気のために医療機関をあちこち渡り歩いて受診することです。いろんな医療機関で診療を受けても、結局は同じ検査を受けることになり、たいていの場合同じ薬が出されます。

医療費は受診した分だけどんどんかさんでいき、よけいな「初診料」や「検査料」がかかることになります。また病院を変える度にくり返される検査や服薬のために、からだに負担をかけてしまいます。

受けている治療に不安があるときは主治医以外の医師の意見を聞ける「セカンドオピニオン」があります。迷わず申し出てみましょう。



「はしご受診」は
やめましょう

あなたの
家計を守る



スマートな受診を心がけて、 医療費の節約

紹介状なしで大病院にかかるのは
お金と時間のムダ使い

軽い病気なのに、出費は大きく、待ち時間も長い、軽い病気やけがでいきなり大病院に受診すると、時間とお金のダブルのムダとなります。

ベッド数が200床以上ある大病院は、小さな病院では扱えないような難しい病気の検査や治療などを行うという重要な役割があります。しかし大病院に軽い病気の患者がふえると、大病院の本来の役割が果たせません。

このような問題を解決するために、患者が初診で紹介状をもたずに大病院に受診した場合、病院は初診料に特別料金を加算することができます。現在、多くの病院で特別料金を徴収しています。

また大病院は患者が多いため、待ち時間が長く、診療時間が短いといったケースもよくみられます。

お金と時間を賢く節約するためには、家や職場の近くなどに「かかりつけ医」をみつけ、まずはそこに受診しましょう。もし専門的な検査などが必要になった場合は、かかりつけ医に大病院への「紹介状」を書いてもらいましょう。

紹介状なしで大病院にかかる
と初診料がこんなに高い

初診料 2,820円
(自己負担3割の場合)

+

全額自己負担 数百円~8,400円
(平均は約2,000円)

※500床以上の大病院はさらに自己負担がふえるしくみも設けられています。

あわてて病院に
かけ込む **その前に**

●小児救急電話相談 (#8000)

小児科の医師や看護師から症状に応じたアドバイスが受けられます。

●救急相談センター (#7119)

救急車をよんだほうがいいのか、病院に行ったほうがいいのか、緊急性の判断や応急手当のアドバイス、医療機関の案内などが救急隊経験者や看護師から24時間受けられます。

※対象地域は東京など一部の地域に限られます。



こんなときは
迷わず救急車を

病院にかかるとき…、症状についてはほんの少し知識があれば適切に対応できます

◆急性心筋梗塞

次のような症状が急にあらわれます。

●胸の真ん中の強い痛み

●痛みがあまり強くない場合もある(肩や腕、あごにかけての痛み)

●痛みがあまり強くない場合もある(胸が締めつけられるような圧迫感)

●痛みがあまり強くない場合もある(痛みがあまり強くない場合もある)

●息切れ ●冷や汗

●吐き気 ●立っていられない

◆脳梗塞

次のような症状が急にあらわれます。

●体の片側に力が入らない、しびれを感じる

●ものが見えにくい

●ことばがうまく話せない

●反応がない

◆くも膜下出血

●今まで経験したことのないような(ハットで殴られたような)強い頭痛

突然死する原因には、おもに心臓発作と脳卒中があります。次のような症状がある場合には、ためらわず救急車をよびましょう。心臓発作のなかで多いのが急性心筋梗塞です。

